

イングリッシュキャンプ

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

外国語を用いた体験活動を通して、異文化・言語に体験的にふれあい、外国語について学ぶ意欲を高めるとともに、外国人とコミュニケーションを図る素養を育成する。

○ 実施期間

令和元年 ① 11月14日（木）～15日（金） 1泊2日

令和元年 ② 11月21日（木）～22日（金） 1泊2日

○ 対象者・参加者数

① 南国市立日章小学校 小学4年生 23名

② 室戸市立羽根小学校 小学4年生 19名

○ 指導者等

国立室戸青少年自然の家職員 1名

NICE 職員 1名

ボランティア 9名

（ポルトガル1名、イギリス1名、オランダ1名、ロシア2名、ベトナム2名、ブルガリア1名、ノルウェー1名）

○ 活動プログラム

	11月14日（木）・21日（木）		11月15日（金）・22日（金）
13:00	学校発	6:00	起床
15:30	自然の家到着	7:30	朝のつどい
	入所オリエンテーション（職員）	7:45	朝食
15:45	ボランティアのレクリエーション （体育館で行う）	8:45	退所点検
17:00	夕べのつどい	9:00	ミッションゲーム
17:15	夕食・自由時間 ・各班のボランティアと一緒に食事をして交流を深める。	12:00	昼食 ・各班のボランティアと一緒に食事をして交流を深める。
18:30	キャンプファイア ※雨天時：キャンドルファイア ・ボランティアが児童に歌を教え、一緒に歌を歌う。	13:00	おわりのつどい
20:00	入浴	13:15	自然の家発
22:00	就寝	15:45	学校着

2. 活動の様子

<1日目>

イングリッシュキャンプ当日は、ボランティア全員で児童を迎え入れた。緊張しながらも、ボランティアと元気よく英語で挨拶をしている児童の姿が多く見られた。入所後は、午後の活動として、体育館でレクリエーションを行った。まず、ボランティアから名前や出身国について、英語で自己紹介を行った。児童はボランティアの話す英語を一生懸命聞き取ろうとしており、話している内容が理解できると嬉しそうな表情を浮かべていた。次に、アイスブレイクの活動を行った。円になり、全員で体を動かす活動を行うことで、児童の緊張をほぐすことができた。フラフープを使った活動やジェスチャーゲームといったグループ活動では、ボランティアと英語を交えながら意欲的に楽しむことができた。活動中は、知っている英語を使ったり、身振り手振りを使ったりすることで、ボランティアとコミュニケーションを取ろうとする姿が多く見られた。夜間の活動では、ボランティアと一緒にキャンプファイアを行った。ブルガリアの音楽に合わせてダンスをしたり、リズムに合わせて体を動かす遊びをしたりする中で、徐々に英語にも慣れ、自ら進んでボランティアと関わるできるようになっていた。



<2日目>

朝のつどいでは、ボランティアと協力して国旗掲揚を行った。また、代表者挨拶では、自分の知っている言葉を用いながら、自信をもって英語で自己紹介をすることができた。朝食時は、1日目よりも積極的にボランティアと話すことができ、楽しそうに会話する姿が多く見られた。分からない言葉については、担任の先生に聞くなどして英語を使おうとする意欲的な態度も確認できた。朝食後は、最後の活動として、ミッションゲームと流木クラフトを行った。ミッションゲームでは、グループに分かれ、ボランティアとともに自然の家の施設を回り、7つのミッションに取り組んだ。ボランティアと協力して活動する中で、自ら積極的に英語を使ってコミュニケーションを取り、ミッション達成時には、ボランティアとハイタッチをしながら喜ぶ姿も多く見られた。また、活動中はウォークラリーカードを使用することで、必要な英語を楽しみながら習得することができた。その後、グループに分かれて流木クラフトの活動を行った。これまでの活動を通して、英語を使用することに抵抗がなくなり、お互いに流木を見せ合いながら楽しんで作成することができた。



3. 事業の成果と課題

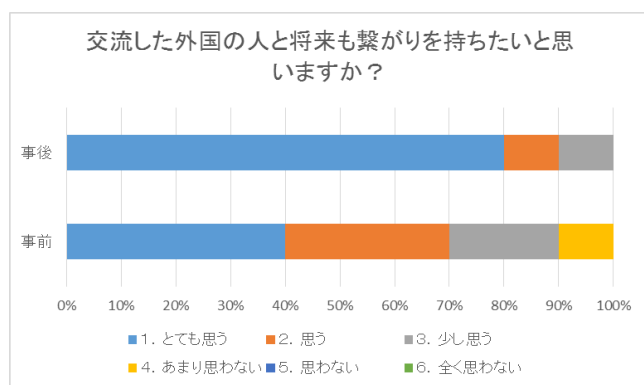
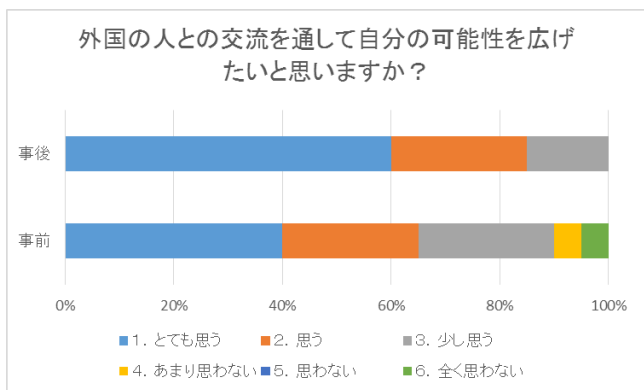
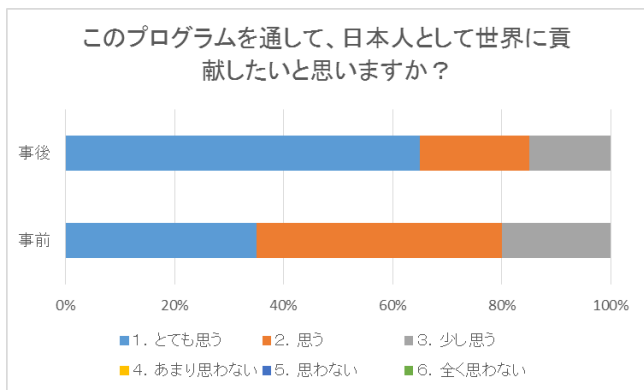
○ 参加者の感想

- ・参加する前は外国人の人と話せるか心配だったけど、一緒に遊んだり話したりして楽しむことができました。
- ・外国人の方たちとレクリエーションや会話をして、とても楽しかったです。また、外国の方と交流したいと思いました。
- ・イングリッシュキャンプとても楽しかったです。帰る時は、寂しくなって泣いてしまいました。今度は2泊3日です。
- ・私は、英語がとても苦手だったけど、ミッションゲームやキャンプファイアをして、少し英語が好きになれたのでうれしかったです。
- ・英語でしゃべっていることは完全には分からなかったけど、何を言いたいイメージすることができました。
- ・ジェスチャーゲームやミッションゲームの時に、分からないことがあったらすぐに分かりやすい英語で教えてくれたり、話してくれたりして、優しいなと思いました。

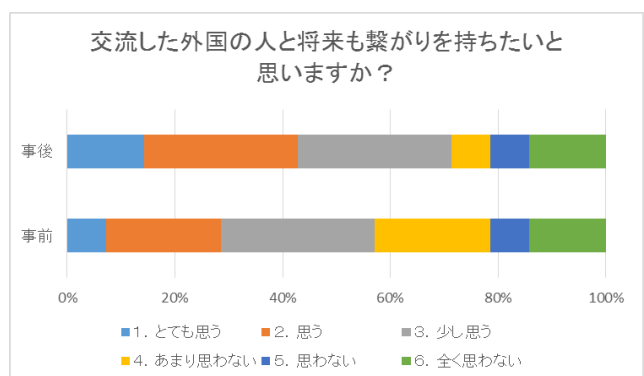
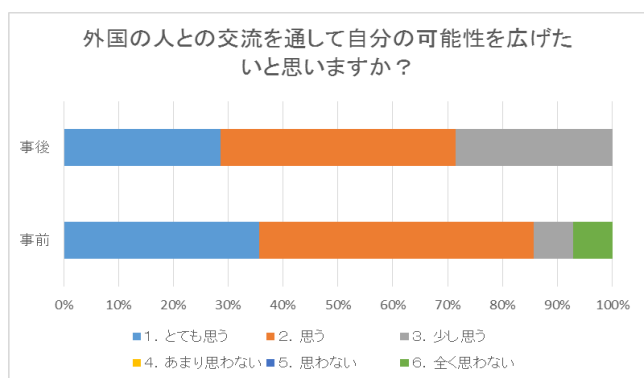
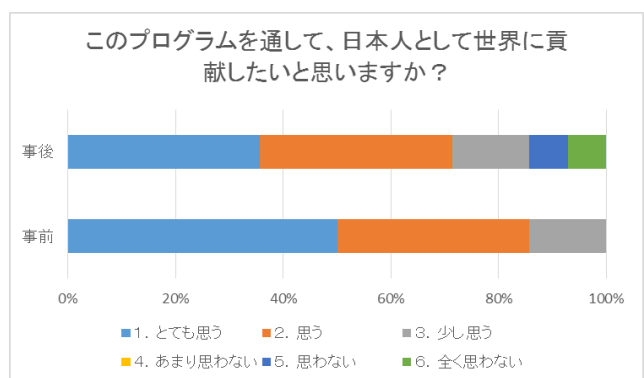
○ 事業の成果

- ・キャンプファイアやミッションゲームといった活動を通して、積極的にボランティアと関わり、自ら英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができた。
- ・少人数グループにボランティアを2名ずつ配置することで、英語に触れる機会を通常よりも多くし、充実した活動にすることができた。
- ・英語に苦手意識のある児童に対して、分かりやすい英語を用いることで、活動に取り組みやすい環境を設定することができた。

＜南国市立日章小学校＞



＜室戸市立羽根小学校＞



○ 事業の課題

- ・ ボランティアを継続して受け入れることができるように調整すること。
- ・ 特別な支援が必要な児童について、事前に共通理解を図ること。